

# Nara Women's University

## Structure-based Instruction

### における英語教材づくりー現在完了形(経験用法)の授業実例ー

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学附属中等教育学校 公開日: 2011-04-04 キーワード (Ja): 英語授業, 文法 キーワード (En): 作成者: 山口, 啓子 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/2667">http://hdl.handle.net/10935/2667</a>

# Structure-based Instruction における英語教材づくり

## ー現在完了形（経験用法）の授業実例ー

山口 啓子

### 1. はじめに

本校の低学年（中学 1、2 年）を対象にした英語授業は、ターゲットとなる文法項目をベースに指導を構築する Structure-based Instruction である。低学年の指導では生徒への興味付けが大切であり、楽しい授業にしようと工夫が凝らされるが、その土台に文法習得を自然に促すような授業構成がなければ、それは単なる楽しい授業になってしまう。確かな英語力を育成するためには、言語項目への気づきを生むようなインプットや現実性（authenticity）の高い文脈でのコミュニケーション活動などを含む 4 技能の統合を意識した授業デザインが必要となる（杉本, 2006; 村野井, 2006）。ここでは、本校の公開研究会に向けて、中学 2 年生を対象に作成した現在完了形「経験用法」の教材とその授業を振り返り、低学年における英語教材作成の一例を紹介する。

### 2. 教材作成において大切にしたこと

文法項目には、形式（form）、意味（meaning）、機能（function）という 3 つの側面がある。これら 3 つの側面が自然に結びついて理解されるよう文法指導では配慮しなければならない（村野井, 2006）。この教材では、現実即したコミュニケーションからターゲットとなる文法項目の意味と機能を推測させて形式と結びつけ、帰納的に文法が指導できるよう工夫した。授業の構成を見ると、Chant と Listening を通して意味のあるメッセージを受け取りながら、現在完了形「経験用法」を理解する前半と、Pair Work と Interview 活動を通して運用しながら文法項目を身につける後半に大きく分けられる（資料 1）。

### 3. 個々の活動のねらいと実践

#### (1) Chant

歌詞の内容から想像する動物の姿は非常に面白く、導入に最適だと考えた。絵を用いながら、内容に引き付け“Have you ever seen ~?” の意味を推測させた。言語項目の導入と口慣らしによる warm-up がねらいである（資料 2）。

#### (2) Listening

身近な例で文脈のあるインプットを与えるため、生徒が授業で接しているネイティブ・スピーカーの「David の日本での経験」をトピックにインタビュー形式のリスニング教材を作成した（資料 3）。このタスクでは、話されるメッセージの聞き取りを通してターゲットとなる現在完了形「経験用法」の意味が推測できるようハンドアウトのメモのキューは日本語で与えた。

進め方としては、リスニングの前半で一旦テープを止め、まず生徒から引き出した情報（David は 10 年間日本に住んでいる）をもとに既習の現在完了形「継続用法」を復習した。そのとき、以下のような時間軸を描いて過去・現在・現在完了の 3 つの時制の違いを際立たせた。その後、次のリスニングが

イントである「経験用法」へつながるよう David が日本で過ごしたこの 10 年間に行ったことのある場所や食べたことのあるものに話題を転換させていったが、これはスクリプトを「継続用法」と「経験用法」の区切れ目で 2 分割するねらいもあった。あとは、生徒の答えをキーワードで板書し、それをもとに「経験用法」の英文をどんどんリピートさせ、慣れさせる。登場した文のいくつかはそのままキーセンテンスとして生徒の中に内在化させ、「経験用法」の形式と意味を簡潔に説明してまとめた。



図 1 : 板書計画

### (3) Pair Work

「経験用法」が理解できたら、次は使いながら定着させていくステップが必要となる。ここでは、“Have you ever ~?” “Yes, I have. / No, I haven’t.” という基本のやり取りをペアで口頭練習し、形式に慣れることがねらいである。過去形と現在完了の違いを意識させるために、質問に対する答えが Yes の場合には過去形で一文を付け加えるようタスクを工夫した。また質問項目は不規則活用の動詞が練習でき、かつ身近な例でできるだけ Yes の答えが出やすいもの考えた。対話練習に入る前に使用する不規則動詞の活用を復習しておき、実際のペア・ワークで正しい活用ができるよう保障した。活動後に、話の広げやすいトピックを選んでその項目を生徒に質問し、答えに関して教員からさらにもうひとつ質問をするようにした。このプラスワンの質問をするやり取りは、次のインタビュー活動に繋がる会話例となっている。

### (4) Interview

ある程度の自由度を持たせながら、言語使用させるタスクとして設定した。これまでの活動を踏まえて、自分たちの例で話ができるよう生徒自身に質問を作らせて、その後クラス全体でインタビュー活動を行った。相手から Yes の答えが返ってきた場合には、それに関係してプラスワンの質問をするようタスクを工夫したが、これは質問する力の育成を意識して付け加えた。インタビュー結果をレポートバックするライティング活動を宿題として入れ、3 人称の形にも慣れることができるようにした。

## 4. フィードバックのまとめ

公開授業について、多数の授業見学者から感想や助言を頂いた。以下にその内容をまとめておく。

### (1) 全体をとおして

- ・コミュニケーション能力を伸ばすための文法シラバスの授業の見本になる。
- ・活動のひとつひとつが緻密に意図され計画されていたので、授業を受けている生徒にも見ている見学者にも、その目的が明確にわかり、メリハリのある授業になっていた。

- ・授業における教員の指示や生徒の活動が流れるような自然な手順で無駄なく運営されていた。

## (2) Teacher Talk (教員の話す英語)

- ・わかりやすい英語を使って指示や説明が出されていたが、何がなんでも英語というわけではなく、複雑な説明の時にはうまく日本語が使われていた。
- ・英語を話すスピードが速くなりすぎないように（言葉が流れてしまわないように）注意する。
- ・日常会話と授業の区別をして、正しい英語を話す。
- ・指示を出すときは短く明確に出し、もし活動中であれば一旦止めてから出す。

## (3) 音声指導

- ・リピートは2回以上させる。
- ・英語は息と同時に音を出す言葉なのでお腹から声を出す指導をする。
- ・生徒の声が少し小さかったので大きな声を出させる仕掛けを考えるとよい。

## (4) 生徒指導

- ・全体に問いかけてから個人指名をする。
- ・指名ばかりでなく、生徒に自ら手をあげさせることを試みる。生徒が能動的な姿勢を見せると、授業がより活性化する。また積極的な態度と頑張った成果を褒めることができるようになる。
- ・個人やペアで発表する機会をより多く設定すると、生徒が達成感を感じる機会が増える。

## (5) 個々の活動

### ・ Chant

絵で生徒の興味・関心を引きつけながら、“Have you ever ~?” の意味を考えさせ、日本語による説明なしに理解させる巧みな手法だった。時間があれば、生徒からの発言をできるだけ促して膨らませることもできたのではないか。例えば、“Have you ever seen a snake? Do you like it? / Have you ever seen a zebra? Where did you see it?” などと絵を見せる前に尋ねて、かつ絵を見せてからは、“What’s strange about this picture?” と生徒に尋ねて答えさせることができた。

### ・ Listening

ターゲットとなる「経験用法」の文がたくさん盛り込まれていて、導入で示したことを実際のコミュニケーションの中で理解させるよい活動だった。スクリプトを一度に全部聞かせず、少しずつ理解を問うようにしたのもよかった。しかし、聞き取るべき情報が多く、「ふぐには毒がある」など本題から離れた内容もあり、生徒はどこを聞き取るかに焦点を絞りにくかったかもしれない。ここでは肝心の文法事項に焦点を当てた、大きな情報の聞き取りを優先させるべきだった。もし詳細情報を聞き取らせるのであれば、聞きながらメモを取るなどの習慣を普段からつけさせるとよい。また、最後にリスニングのスクリプトを配布すると、それを音読することもできる。キーセンテンスとなる例文は、教員が英文を読んで生徒にディクテーションさせるとよい。

### ・ Pair Work

使うべき動詞の過去分詞を生徒がしっかりと確認できた状態で活動に入っており、非常によかった。できれば、Interview での further information のやりとりにも配慮すると、活動がより生き生きとしたものになる。例えば、“Have you ever eaten Italian food? – Yes, I have. I ate it the other day.” や

“Have you ever read *Harry Potter*? – No, I haven’t. I have never read *Harry Potter*.” というやりとりだけで終わると、練習としては成立するがコミュニケーションとしては物足りず、味気ないものになってしまう。しかし、モデルのやり取りに何か一言付け加え、それに対して最初に尋ねた相手が反応するレベルまで持っていけるとコミュニケーションがぐっと豊かになる。

A: Have you ever eaten Italian food?

B: Yes, I have. I ate it the other day. I like pizza.

A: Me, too.

A: Have you ever read *Harry Potter*?

B: No, I haven’t. I have never read *Harry Potter*, but I saw the movie.

A: Was it good?

B: Yes, it was.

このようなプラスワンの対話ができるようになるためには、日頃の訓練が必要である。すぐできるようになるものではないが、コミュニケーションへの意欲やルールを身につけさせる意味で訓練すれば、生徒はきっとできるようになる。コミュニケーションを有意義なものにするためにも、プラスワンの会話ができるよう日頃から訓練するべきである。教員は活動中机間巡視をして、生徒がうまく言えないときに助ける。多くの生徒が困った表現は、正確な言い方を後で全員に教えてやるとよい。

#### ・ Interview

コミュニケーション活動をより楽しく生き生きとしたものにするには、うまく言えなくても何とかコミュニケーションを続けようとする姿勢を育成しなければならない。また “How was it? - Good.” ではなく “It was good.” と完全な文で応答する習慣をつけさせた方がよいだろう。中には、わざとカタカナ英語で話している生徒もいたため、良い発音でコミュニケーションをとるよう指導するべきである。

## 5. 今後の課題

英語の音声やリズムに重点を置きながら、帰納的に文法を指導する教材の一例を紹介した。今後は生徒に正しい発音で話させるための発音指導や大きな声を出させるための工夫を考えなければならない。生徒が発表する機会を多く設定し、褒める場面が増えれば、彼らの自信も高まり、声も出やすくなるだろう。また、質問に対して「主語＋動詞」のきちんとした文で応答する癖や、コミュニケーション活動において英語でうまく言えなくても何とか伝えようとする姿勢は、1年生からの指導で継続的に身につけさせる必要がある。特に、コミュニケーションの維持に対して積極的な姿勢を育むことは、相手の言葉に対して質問する力や、何を質問するかを考えて聞く力の育成にも関わってくる。自分で会話を展開させられるようコミュニケーションを豊かにする訓練が、今後の指導改善の鍵になるのではないかと考える。

<参考文献>

Steven, J. M. & B, Bliss. (2001) *Side by Side(3rd ed.)*. New York: Longman.

Hartley, B. & P, Viney. (1994) *New American Streamline*. New York: Oxford University Press.

Nakamoto, M. (2001) *Chants for Grammar*. Tokyo: Apricot.

杉本義美 (2006) 『中学校英語授業 指導と評価の実際－確かな学力をはぐくむ』大修館書店。

村野井仁 (2006) 『第二言語習得研究から見た効果的な英語学習法・指導法』大修館書店。

## Teaching Plan

Instructor: Keiko Yamaguchi

**1. Date:** Saturday, February 21, 2009

**2. Class:** The 2nd year, Class B, “い” (9 girls and 11boys), Nara Women’s University Secondary School

**3. Text:** Original texts adapted from *Up and Away in English* (Oxford University Press), *Side by Side* (Longman), and *New American Streamline* (Oxford University Press)

### 4. Aims of this lesson:

- (1) To familiarize the students (Ss) with the use of the present perfect
- (2) To have Ss understand the difference between the simple past tense and the present perfect
- (3) To have Ss enjoy communicating with their friends and the instructor

### 5. Aims of this period:

- (1) To have Ss understand and use the present perfect (experience in the past)
- (2) To have Ss listen to the interview between their teachers
- (3) To have Ss make some questions and interview their friends

### 6. Time allotted for this lesson:

- 1<sup>st</sup> period: Introduction of the present perfect (継続) 「(今まで)ずっと~している」 (since, for, How long~?) (Handout No.58)
- 2<sup>nd</sup> period: Review of the 1<sup>st</sup> period, reading, pair work (Handout No.58)
- 3<sup>rd</sup> period: Introduction of the present perfect (経験) 「(今までに)~したことがある」(ever, never)  
Listening, pair work, interview (Handout No.59) 【This period】
- 4<sup>th</sup> period: Review of the 3<sup>rd</sup> period, listening, pair work (been to, once, twice, ~times, How often ~?, How many times ~?) (Handout No. 60)
- 5<sup>th</sup> period: Introduction of the present perfect (完了) 「~したところだ」「~してしまった」(just, already, yet) (Handout No. 61)
- 6<sup>th</sup> period: Review of the 5<sup>th</sup> period, pair work (Handout No.61, 62)
- 7<sup>th</sup> period: Listening activity, review of the present perfect (No. 62)

## 7. Teaching procedure:

Time Min.	Activity	Instructor's activities	Students' activities	Notes
1	Greetings	To greet Ss	To greet the instructor	
5	Chants	To have Ss chant "Have you ever seen a snake?"	To chant "Have you ever seen a snake?"	To have all the Ss sing in a loud voice
16	Listening	To explain the task to Ss To play the tape  To have Ss share information they've got To reproduce some sentences from Ss' notes To have Ss understand the usage of the present perfect To have Ss read aloud key sentences	To guess who is talking To listen carefully and take notes To answer the questions  To write down key sentences and understand the point To repeat after the instructor	To have Ss listen to the interview carefully
12	Pair Work	To review the past participles of some words with flash cards To have Ss practice in pairs To walk around the classroom and help Ss if necessary To call on some Ss and ask them some questions	To read out the words  To enjoy talking in English To practice the present perfect form in pairs To answer the questions	To help Ss if necessary
15	Interview	To have Ss make three questions  To have Ss interview their friends	To make three questions using the present perfect To find someone and have an interview	To help Ss to be creative To help Ss talk in English
2	Consolidation	To assign homework To greet Ss	To take notes To greet the instructor	

## Chant

Have you ever seen a snake, a snake with legs?	NEVER!
Have you ever seen a pig, a pig with wings?	NEVER!
Have you ever seen a zebra, a zebra without stripes?	NEVER!

*(Chants for Grammar)*

## Listening

**Step1:** Listen to the tape and take notes.

David's experiences in Japan	
1. 住んでいるところ (年数)	
2. 行ったことのある場所 (その回数)	
3. お気に入りの場所	
4. 食べ物について	

**Step2 :** Write down key sentences.



## Pair work

A: Have you ever seen a ghost?

B: Yes, I have.

I saw a ghost last year.  
three years ago  
the other day (先日)

/ No, I haven't.

/ I have never seen a ghost.



(1) break your leg



(2) ride a horse



(3) eat Italian food



(4) read *Harry Potter*



(5) sleep in a tent



(6) lose your key



(7) give a speech in English



(8) visit USJ



## Interview

**Step1** : Make three questions, "Have you ever + 過去分詞 ~?"

例) Have you ever listened to Greeeen?

1. \_\_\_\_\_
2. \_\_\_\_\_
3. \_\_\_\_\_

**Step2** : Ask your friends the questions above (↑).

If the friends answer "Yes," give one more question.

例) Where did you \_\_\_\_\_?

When did you \_\_\_\_\_?

How was it?

Name	Q1	Q2	Q3	Notes (他の情報)
例) Mika	Yes	No	Yes	last week, great ... etc.



友達へのインタビュー結果をノートにまとめよう。

例) Mika has listened to *Greeeen*. She listened to their songs last week. She loves them.

資料3 リスニング教材 スクリプト

**Interview**

Keiko: Hi, David. We came to this school last April, but I haven't got to know you very well.

Can I ask you some questions?

David: Sure.

Keiko: Thank you. So, first, how long have you been in Japan?

David: I've been here for 10 years. I've lived in a few places around Japan, and now I live in Uji.

Keiko: Oh, Uji in Kyoto.

David: I've lived there for 3 years. I really like it.

Keiko: Do you? Have you ever visited any other places in Japan?

David: Yes, I have. I've been to Kyushu and Okinawa.

Keiko: Which part of Kyushu?

David: Hakata. I've been there many times because it's my wife's hometown.

Oh, and I have been to Tokyo once, too.

Keiko: So, What is your favorite place?

David: The best place I've been is probably Okinawa. I have been there three times.

And every time, I had a great time! I ate pineapples, swam in the sea, and saw snakes in the zoo.

Keiko: Sounds fun! I've been to Okinawa twice. It's fantastic! I like food in Okinawa, especially doughnuts. Have you ever tried them?

David: No, I haven't.

Keiko: Have you ever tried any Japanese food?

David: Yes, I've tried lots of different Japanese food since I came to Japan. The strangest and the best is probably *fugu*!

Keiko: How do you say *fugu* in English?

David: It is called blowfish in English. It is a dangerous food. It can kill you!

Keiko: Yeah. I have never eaten blowfish. I want to try it someday. Now I can see you've had an exciting life in Japan. Thank you.

David: You're welcome.